

委員会視察記録

委員会名	文化観光委員会				
期 間	令和7年10月14日～16日				
参加者	委員長	杉山 淳	副委員長	加畑 毅	
	副委員長	杉本 好重	委員長	良知 淳行	
	委員	鈴木 澄美	委員	山田 新	
	委員	落合 慎悟	委員	桜井 勝郎	
	委員	阿部 卓也			
視察先	1 瀬戸内国際芸術祭（実行委員会事務局：香川県高松市、現地：香川県綾歌郡宇多津町） 2 あなぶきアリーナ香川（香川県高松市） 3 四国村ミュージアム（香川県高松市） 4 高松空港（香川県高松市） 5 姫路ユニバーサルツーリズムセンター（兵庫県姫路市）				

視察の概要

10月14日（火）

■ 瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局

<概要>

2010年から3年に1度開催される現代アートの祭典で春、夏、秋に分け約100日間の会期となっており、現在第6回目の秋会期を開催中である。いわゆる地域型芸術祭で、アートによる地域活性化を目的としており、開催の背景には人口減少や豊島の廃棄物問題、直島等の銅精錬所による公害など島の衰退がある。

特徴としては、住民との交流があり、住民とのアートイベントや食の取組、お遍路とのコラボなどが行われている。芸術祭の効果としては、多数の来場者数があること（2019年は117万人）のほか、移住者の増加、経済波及効果、知名度のアップ、地域の自信となっていること等が挙げられる。そのほか登録ボランティアのこえび隊が会期中のサポートのほか、会期外の1,000日間も地域活動に参加するなど交流を図っている。



<主な質疑応答>

Q 芸術について県民理解は得られているか。

A 何もないと思っていた自分たちの地域のよさを再確認する機会になっているとの声を頂いている。

Q 登録ボランティアこえび隊のメンバーの分布や活動費は。

A 県外、海外(18%)からも来られるが、活動費は自費である。

■ あなぶきアリーナ香川

<概要>

令和7年2月開館の多目的アリーナで、J R高松駅や琴電の駅のほか官公庁

やホテルが集まるアクセスのよいエリアに立地している。

メインアリーナは最大1万人が収容でき、プロスポーツのほか県内初の有名アーティストのコンサートも開催され、四国内からの集客がある。そのほか競技スポーツの全国規模の大会の開催、サブアリーナや武道場では部活動など地域スポーツの利用がある。

指定管理者には、コンサート・イベントの制作企画会社やプロバスケットチームが参画し、ネーミングライツも契約している。利用料金は目的に応じ、営利目的は高く、学生の大会は安く設定している。また渋滞対策のため公共交通機関利用促進策のほか商店街の駐車場料金割引や高松市と共同で駐車場満空アプリを運用開始した。

アリーナの整備効果としては、大規模イベントによる交流人口増加、周辺エリアやまちなかへの回遊増加、プロジェクションマッピングなどアリーナを活用した誘客促進などが挙げられる。

<主な質疑応答>

Q 稼働率や収支見込みは。

A 段階料金にしているためコンサート等のイベントが多いと収入は上がる。収支目安として設定した20公演40日をおおよそ達成している。

Q 曲面の形状は建築費が高くないか。メンテナンスや維持管理費はどうか。

A 直線形状が一番安いと考えられ、やはりそのような意見はあったが、第三者の目を入れながらコストコントロールし、検討を重ねた。維持管理については、指定管理者の意見も聞きながら、県の公共施設長寿命化計画の中での予防的、計画的なノウハウを活用しながら行っていく。



10月15日（水）

■ 四国村ミュージアム

<概要>

昭和51年に開村した伝統的な古民家や歴史的建造物を移築復元した民営の野外博物館で、令和4年にリニューアルを実施した。

現状としては、屋島来訪者の1割程度が四国村に来る状況に変わりはないが、屋島全体の観光客が以前より減少している。瀬戸内国際芸術祭とは企業としての協賛のほか、おやねさん（エントランス建屋）自体が前回の作品であり、現在も猪熊弦一郎の作品展を連携して開催しており、香川県、高松市の観光担当課とも連携している。空港などのインフラ整備はあくまで手段であって、最終目的地として行きたいと思わせる価値がないと再訪はない。イベントがなくても行きたいと思わせるような価値を作らなければならないと考えている。



<主な質疑応答>

Q 運営主体は。公的な資金は入っているのか。

A 公益財団法人が運営しており、公的な資金はなく、入場料収入やグループ企業からの収入である。

Q 広大な敷地であるが所有者は。

A もともと周辺の土地は会社として所有していたが、上の方の土地は地主から寄付され、さらに上の方は国から払下げを受けて最終的に今の形になった。

■ 高松空港

<概要>

平成元年に高松市の中心部から現地に移転開港し、旅客貨物輸送拠点であるとともに災害輸送拠点としての役割も担っている。平成30年には(株)高松空港による運営を開始し、その後コロナ禍で国際線が全便運休したものの運休中に下準備を進め、再開後すぐに対応できたのは全体をトータルに運営してきた成果と考えている。



空港利用者数は令和6年に213万人と過去最高を記録し、国際線(48万人)の伸びが牽引している。これは香川県が国際線の誘致に力を入れた結果であり、国際線の乗降客数は全国9位、国際線の割合が多い空港となっている。また公民連携によるエアライン誘致協議会を設置している。

現在は国際線の受入れ機能拡充のためリニューアル工事を実施している

<主な質疑応答>

Q 富士山静岡空港は台湾線が運休している。台湾線早期再開の背景は。

A 台湾線は当初から積極的に誘致していた。ソウルと台湾は当初からトップセールスに取り組んでいた。県が主導してインバウンドの誘致、空港株式会社がアウトバウンドの旅客を増やす取組と分担しており、空港周辺地域の経済活性化のためにはインバウンド、アウトバウンドの両輪が大切である。

Q 人材確保策は。

A グランドハンドリング人材の確保は国際線就航のためにも重要である。HPでの情報発信のほか長期的視点で高校生へ冊子を配布している。

■ 瀬戸内国際芸術祭（宇多津エリア）

<概要>

宇多津町は香川県内最小面積の町で、人口密度が一番高く、瀬戸大橋の四国側の玄関口である。瀬戸内国際芸術祭には、今回から展示エリアとなった。

<主な質疑応答>

Q 神社のお社^{やしろ}内に作品展示があるが、反対はないか。



- A 懸念はあったが、作品の意図を理解していただき展示に至っている。
- Q 地元の塩で造形した山本基氏の作品はどう制作したか。保管は。
- A 現地で制作した。破損もあるので何度も修復している。製塩業のまちである宇多津町の文化的背景を映している作品である。

10月16日（木）

■ 姫路ユニバーサルツーリズムセンター

<概要>

当センターを運営しているコムサロン21は委託を受けて各種事業を実施しているが、ユニバーサルツーリズムに関しては7年前から実施している。具体的な事業としては、コンシェルジュの育成、電動車椅子の貸出やサポート、ユニバーサルルームのある宿や対応可能なタクシーの紹介、温泉介護サービス、透析患者向けのモニターツアーの実施、ユニバーサルマップの作成などを実施している。



姫路城は障害のある方にとって移動が難しく旅行を諦める方が多いが、サポートすることで家族も安心して旅行できると考えている。

実際にサポートで使用している電動車椅子WHILLは全国の観光地や空港でレンタルが開始されているが、事故の補償も付いており、現地で借りて観光する形が定着すると考えている。

<主な質疑応答>

- Q 県のユニバーサルツーリズム推進条例制定の効果は。
- A 条例制定により市町が認識して動き始めたが、小さな町ではまだ進んでいないので、サポートして面として広げたい。
- Q 市町は人材に限られ予算規模も小さいが、事業実施は可能か。
- A 単独では難しいため連携が必要である。市町同士では連携が進まないの
で要望があればセンターでサポートするが、広域連携のための予算を県に
要望している。